

# 100年 カンパニー の知恵。

鈴木商館 (東京)

since 1905  
E

## 新し物好きの初代

東京都板橋区、JR埼京線淨間舟渡駅近くに、3月に創業100年を迎えた鈴木商館が本社ビルを構える。古風な響きの社名からは事業分野が想像つかないが、高圧ガスの製造販売を担う老舗だ。現在では化学品、低温機器製造販売など、事業は多岐にわたっている。同社の「百年史」などを基に、創業期からたどってみたい。

日露戦争さなかの1905(明治38)年3月、東京・麴町、創業者の初代鈴木登来治・元社長(1888-1944年)が、

たばこ雑貨販売とラムネ簡易製造機の輸入販売を手がける個人商店を開いた。1年余り前に故郷・岩手県から上京し、たばこなどの仲買業を始めていたが、納品先として横浜港に出入りする軍艦が加わり、転機となった。

乗組員がドイツ製の機械で製造された

社業を通じて  
社会の進歩と  
繁栄に貢献する

ラムネを飲んでいた。子供の頃には医師を夢見た初代は理系人間だったようで、この製造機に強い関心を抱いた。

店を開いて間もなく、ラムネ簡易製造機と炭酸ガスの輸入販売に専念。外国商館も取引先があり、「外国商館に遜色ない会社」という気概を持って、09年に屋号を「鈴木商館」とした。

13(大正2)年には、故郷から知人の少年2人が相次いで入店した。後に経営の中枢を担う千田勝彦元会長(87年死去)と菊池秀定元副社長(85年死去)である。

「初代は、へそ曲がりで、かつ『新し物好き』だったようです」と孫の鈴木慶彦社長(64)。アイデアマンでもあったように、ラムネのように季節商品ではない医療用炭酸ガスの販路も広げた。

その後、自ら研究を重ねて17年に「鈴木式酸素吸入器」を独自開発して発売した。くしくも翌年、インフルエンザが流行し、酸素吸入器は大ヒットした。

【佐藤浩】



鈴木式酸素吸入器のPRポスター  
鈴木商館提供